

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No. 15

目次

・特集：不妊看護の評価	1
・訪英報告	2
・第5回日本生殖看護学会学術集会のご案内	4
・第4回生殖看護実践セミナーのお誘い	5
・2007年度 これから行われる学会・研修会等のお知らせ	5
・勉強会のお知らせ	6
・看護者の「つぶやき」	6
・もしも不妊看護の現場で行き詰まったら	7
・第5回理事会報告	7
・日本生殖看護学会からのお詫び	8
・事務局からのお知らせ・編集後記	8

特集：不妊看護の評価



私達が対象の方々に提供しているケアが効果的だったのか、適切だったのかを客観的に評価しようとする、何で評価したらよいか迷いますよね。また、看護職以外の人から評価してもらうためには、さらに苦慮する所です。

看護職に限らず医療の評価を反映させる指標に、サービスの代償として保険から支払われる診療報酬があります。日々のケアに代償を求めることに抵抗を示す方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、診療報酬が医療の質や安全に直結する指標だと考えたら、私達が実施しているケアを正当に評価してもらう意義が出てくるわけです。そこで、今号では、「看護系学会等社会保険連合への加盟」を通して、「不妊看護の評価」を皆様に問題提起したいと思い企画しました。報告は、本学会から出席した森 明子理事長です。

看護系学会等社会保険連合に加盟して：診療報酬と不妊看護を考える

日本生殖看護学会 理事長 森 明子

看護系学会等社会保険連合は、「看保連」（かんほれん）と略されますが、まだ耳慣れない人も多いのではないかと思います。看護の立場から社会保険制度の在り方を提言し、診療報酬体系および介護報酬体系等の評価・充実・適正化の促進を目的とし、2005年7月に看護系学会等の代表が集まって発足した組織であり、

現在40団体が加盟しています。より具体的に言えば、診療報酬について協議される中央社会保険医療協議会（中医協）など政策の場に、学術的エビデンスに基づいて構築された看護の評価（意見）を反映させる取り組みを行う組織だということになります。

日本生殖看護学会も発足時より加盟し、昨年引き

続き、本年も活動に参加しています。

看保連には、「看護技術検討委員会」と「診療報酬および介護報酬体系の在り方に関する検討委員会」の2つの委員会があり、加盟団体は、組織の目的や役割の性質により、どちらかに分かれて所属しています。本会は学術団体ということで「看護技術検討委員会」に所属しています。エビデンスを探す、掘り起こす、自らつくる、そして技術として提案していきましょう、というわけです。そうはいっても、エビデンスレベルの高い研究をするためには、それなりの体制と時間を要します。研究資金を看保連からいただけるわけでもありません。時間もお金もかかり、容易なことではない、けどやっついていかなければ…というのが本会も含め、加盟団体の概ねの反応のようです。

ともあれ、今春は診療報酬の平成20年度改定に向け、本会からも、看護技術検討委員会の指導を受けながら、18年度改定で加算が新設された「HIV 感染症外来療養支援・指導料」の提案書などを参考に、医療技術評価提案書を作成し提出しました。各加盟学会から提出された提案書は、看保連として、どれを提出するかの検討がなされ、6月中旬過ぎに中医協に提出されます。

平成18年度診療報酬改定にあたり、厚生労働省・社会保障審議会・医療保険部会社会保障審議会医療部会

は以下の4つの視点から改定が行われるべきとしました。

- (1) 患者から見て分かりやすく、患者の生活の質(QOL)を高める医療を実現する視点
 - (2) 質の高い医療を効率的に提供するために医療機能の分化・連携を推進する視点
 - (3) 我が国の医療の中で今後重点的に対応していくべきと思われる領域の評価の在り方について検討する視点
 - (4) 医療費の配分の中で効率化の余地があると思われる領域の評価の在り方について検討する視点
- 患者の視点や医療の実質を重視した評価がなされるようになり、今後もこのような方向性は大きく変わることはないものと思われます。

不妊治療が行われる診療場において、患者・カップルに必要なケアでありながら、診療報酬体系に載っていないものは何でしょうか。ナースも一人一人が真剣に考える時が来ています。

【参考 URL】

看護系学会等社会保険連合（看保連）

<http://www.kanhoren.jp/index.html>

厚生労働省「平成18年度診療報酬改定に係る通知等について」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/03/tp0314-1.html>

訪英報告

イギリスの Donor Conception (DC: 提供胚・配偶子による生殖) 事情

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 清水 清美

聖路加看護大学の Women-Centered Care の不妊ケアプロジェクトの一環で訪英の機会をいただきました。ここでは、イギリスの Donor Conception (DC: 提供胚・配偶子による生殖) に関わる事象について報告します。

イギリスの HFE 法（ヒトの受精と胚研究に関する法律）は、提供胚・配偶子で生まれた子どもの出自を知る権利として、これまでは本人を特定できない範囲（身長・体重・髪の色・職業・趣味）と定めてきましたが、2005年に提供者を特定できる情報（氏名や住所）と改正されました。この影響が医療現場や生殖技術を利用した人々にどのように影響したのか強い関心がありました。

訪問した医療施設はミッドランドファーターティリティクリニック。パーミンガムの広域をカバーし、19年の実績の中で、3500名以上の赤ちゃんを不妊夫婦に授け

てきた中核病院。出迎えてくれたのは、看護マネージャーのハイジ。彼女は探明もする不妊専門看護師です。

医療施設での対応

この施設では、2005年の法改正を機に提供者の確保が難しくなり、治療を求めて一時海外への渡航者も増えたそうですが、精子は一般公募、卵子提供は姉妹間およびエッグシェアリングを中心に実施することで、被提供者の待機時間はかなり短縮したそうです。

姉妹間の卵子提供では、当事者だけでなくそれに関わる家族や親族にカウンセリングすることで、よい結果を得ているようです。姉妹間のジェラシーはとても一般的な問題であるとも。治療の前に家族皆で十分に話し合うこと、オープンにすることが大切だそうです。

また、エッグシェアリングは治療費を被提供者に一部負担してもらうかわりに卵子を提供するというシ

システム。採取できた卵が3個以上なら実施可能で、3個以下ならシェアリングはできず治療費は全部自分もち。一人の提供者に一人の被提供者というマッチングで、年間200~300人がシェアリングしており、被提供者側の費用は4000~5000ポンド (IVF2250ポンド、提供卵子費用1425ポンド・その他処置費) だそうです。提供者には年齢制限や医学的な条件をクリアした人という条件があります。

幸運にも私は、シェアリングを希望して採卵に来ていた女性の採卵前のカウンセリング場面と、提供卵子を希望して説明を受けにきたカップルのカウンセリング場面に立ち会うことができました。採卵の前の説明は日本と変わりありませんでしたが、1年後に提供した夫婦に子どもができたか知ることができること、またその子どもが18才になり希望したら、あなたを特定できる情報が開示されることなどがありました。彼女は20数個の卵子が取れており、シェアリングは可能とのこと。

提供卵子の初診に来られた夫婦には、看護師が対応し、挨拶ではじまり、夫婦の既往歴の確認、エッグドネーションのシステム、不成功率・流産率、卵子提供の手順、生まれた子どもの権利などの情報提供が主でした。妻は事前に勉強しており、積極的に質問、一方夫はほとんどなすく程度。看護師の話は淡々としており、この説明と、超音波検査、夫の感染症検査で250ユーロ (約5.5万円)、けっして安くない値段でした。看護師は、最後に「私があなたたちのプライマリーよ。いつでも相談に応じます」と、夫婦に名刺を差し出しました。「いろいろな疑問は後からわいて来るからね」って。

自助グループの対応

もうひとつの目的はオリビア氏に会うことでした。彼女は精子・卵子・胚提供による生殖医療の当事者グループ (Donor Conception Network) の代表者です。彼女は非配偶者間人工授精を用いて母親になったことをオープンにしています。また、医師も提供者も親も黙っていればうまくいく技術と考えられていた20数年前から、「人間としてうそをつくことはいけない」「子どもに正直であることが、親子関係を育む上で大切」と、子どもの出自を知る権利を大切にしてきました。

イギリスでは年間DCにて約2000人出生しており (総人口は日本の約半分なのに、日本の10倍以上の人数。非配偶者間人工授精を受ける独身女性の数がこの5年間で25倍に、中でもレズビアン女性は4倍に増加。)、Donor Conception Network だけで約1000名の会員が

いるとのこと。彼女は、2006年、子どもに伝えるための親の教材として「Telling & Talking」を作成しました。イギリスでもすべての人が告知しているわけではありませんが、彼女の活動を通して、その必要性は認識されつつあります。

看護職と自助グループの連携

オリビア氏の発言から「ナースには「子どもをつくる」という考えではなく「家族をつくる」という考えをもって、医師とは違う立場で関わってほしい」「ナースのカンファレンスに講師で招かれたことはよい機会だった」など、看護職の理解・支援を必要としていることが伺えました。卵子提供によって生まれた子どもは最年長で13歳。社会的なコンセンサスも受けつつある技術ですが、まだまだ手探りの段階でもあるようです。

おわりに

イギリスでは、日本で認可されていない卵子提供を始め、シングル女性やレズビアン女性まで拡大された生殖医療が実施されています。その一方生まれてくる子どもの権利を第一とする政策の狭間で、提供者への配慮など懸念する部分もありますが、最善である努力をしていると感じました。日本は第3者が関わる生殖医療のあり方について統一した見解がないままです。しかし、その中で、さまざまなニーズをもった患者と日々私達は向かい合わなければなりません。イギリスのようなフォロー体制が即日本に活用できるとは思いませんが、イギリスの歩みから日本は何を学ぶべきか、何を大切にすべきか、看護者一人一人が考える時期に来ていると思いました。

(注:医療施設での対応は、ハイジの話の他、看護師・カウンセラーの話、病院のパンフレット情報も追加しています。)



オリビア氏と 左上川元氏、右土森氏、左下著者

第5回日本生殖看護学会学術集会 ～福岡で開催～

期日：2007年9月9日（日）9:30～17:00 会長：福田貴美子（蔵本ウイメンズクリニック）
会場：アクロス福岡 7階大会議室（〒810-0001福岡市中央区天神1丁目1番1号）

第5回 日本生殖看護学会学術集会 事務局（担当：福田、久保島）
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-1-19
医療法人 蔵本ウイメンズクリニック内
TEL：092-482-5558 FAX：092-482-1415
Eメール：jsfn@kuramoto.or.jp



Photo by City of Fukuoka

■ 参加申し込み方法

下記の指定口座へお振り込み、お手続きください。

事前申し込みを8月15日（水）迄にすませて頂いた場合、参加費が1000円安くなり、
学術集会開催前に学術集会プログラム・講演集をお送りいたします。

<参加費>事前申し込み：会員4500円 非会員5500円
学生（大学院生・研修生は除く）1500円
当日参加：会員5500円 非会員6500円
学生（大学院生・研修生は除く）2500円

会費の中にはポスター演題発表の際のケーキ・飲み物代500円が含まれております。

昼食は、各自おとりください。

<振込先>郵便振込 口座番号：01710-7-81835 加入者名：「第5回日本生殖看護学会学術集会」
通信欄に会員・非会員・学生の種別をご記入ください。

※学術集会参加者には先着100名で不妊看護マニュアル（不妊看護認定看護師教育課程作成）をプレゼントします。
臨床に役立つ素晴らしい内容なので必見の価値あり！

■ 学術集会概要

9:30-10:00	会長講演	生殖看護における対象理解のためのトリアージを利用したプライマリーナーシング 蔵本ウイメンズクリニック 福田貴美子 座長：浜の町病院 金丸道子
10:00-11:30	一般演題	セッションⅠ 座長：熊本大学医学部附属病院 本田万里子 セッションⅡ 座長：蔵本ウイメンズクリニック 久保島美佳 セッションⅢ 座長：フラウエンハウス加来（助産院）加来久美
11:30-12:30 12:30-13:00 13:00-14:00	昼食 総会 講演	AID（非配偶者間人工授精）を選択して家族になることとは 当事者F氏 座長：蔵本ウイメンズクリニック 福田貴美子
14:00-15:40	シンポジウム	広い視野にもとづく生殖看護の展開に向けて 座長：福岡県立大学看護学部 石村美由紀、九州大学医学部保健学科 末次美子 心身の立場から 誰にも言えなかったクライアントの思い～流産・死産・提供卵・多胎等の経験から～ あかざけいこ・カウンセリングルーム 産城恵子 行政の立場から 特定不妊治療費助成事業から見える地域での患者とその家族 福岡市博多区保健福祉センター健康課 岡田英理 看護の立場から NICUにおける母児への援助 熊本大学医学部附属病院周産期母子センター 牛島輝美
15:40-17:00	ポスター演題	演者は自分のポスター前に立ちっぱなし時間に応える。 この時間は、懇親も兼ねてケーキと飲み物付で参加者は自由に交流や質疑応答 座長：産業医科大学産業保健学部 實崎美奈
17:00		閉会

日本生殖看護学会 / 聖路加看護大学21世紀COEプログラム主催

第4回生殖看護実践セミナー

看護者として赤ちゃんポストの理念を知りたいと思いませんか。日本における養子縁組制度等の現状について、あなたはどの程度理解しているでしょうか。養子縁組によって妻となる夫婦への看護をともに考えてみませんか？

テーマ 「授かったいのちを支援する方法」

日時：平成19年9月8日（土） 13：30～16：30

場所：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 〒810-8539 福岡市中央区舞鶴3丁目5-27

参加資格：学会員

参加費：無料

申込方法：事前申込はメールもしくはFAXで。

お問合せ・申し込み先：

日本生殖看護学会 生殖看護実践セミナー担当 高島

千葉県千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学看護学部内

電話043-226-2412 FAX 043-226-2414 E-mail takashima@faculty.chiba-u.jp

※セミナーの詳細につきましては、同封の「第4回生殖看護実践セミナー」チラシをご参照下さい。

2007年度 これから行われる学会・研修会等のお知らせ

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
2007年 9月	29日・30日	日本IVF学会（第10回）	パシフィコ横浜 （横浜市）	日本IVF研究会 http://www.ivf-net/
10月	11日・12日	日本母性衛生学会（第48回）	つくば国際会議場	日本母性衛生学会事務局 TEL (03) 3820-2117 FAX (03) 3820-2118 http://www.bosci-eisei.org/
	13日～17日	American Society for Reproductive Medicine 63 rd Annual Meeting	ワシントンD.C. （合衆国）	ASRM http://www.asrm.org
	25日・26日	日本生殖医学会（第52回）	秋田県民会館・秋田 キャッスルホテル（秋田市）	秋田大学医学部生殖発達医学 講座産婦人科学分野 TEL (018) 884-6163 FAX (018) 884-6447 http://www.cnu.ac.jp/~jsrm52/ http://www.jsfs.or.jp
12月	7日・8日	日本看護科学学会（第27回）	東京国際フォーラム（東京都）	日本看護科学学会事務局 TEL (03) 5805-1280 FAX (03) 5805-1281 http://jans.umin.ac.jp
	6日～9日	日本家族計画協会 「コメディカルのための遺伝 カウンセリングセミナー（第 31回上級コース）」	場所未定	日本家族計画協会 研修課 TEL (03) 3269-4785 IP電話 (050) 3386-3052 FAX (03) 3267-2658
2008年 2月	13日・14日	日本看護協会継続研修 「先天異常をめぐる周産期看護」	日本看護協会神戸 研修センター（神戸市）	日本看護協会神戸研修センター TEL (078) 230-3250 http://www.nurse.or.jp/kobe
3月	15日・16日	日本助産学会学術集会（第22回）	神戸国際会議場（神戸市）	日本助産学会 http://square.umin.ac.jp

*2007年6月18日現在の情報です。詳細は各学会・学術集会事務局へお問い合わせ下さい。

勉強会のお知らせ

関東地区 生殖看護実践勉強会

【テーマ】「看護実践場面の記述方法について」- Part1 -
うまかった看護、うまくなかった看護を記述し、他者に伝え、共有することは、自己の実践を振り返り、その実践知を他者と共有することにつながります。すなわち、事例から学び実践力を高める、事例報告、事例研究を通じて実践知が形式知になるということを意味します。そこで、本勉強会では、看護実践場면을記述し、事例を報告する方法についての基本を確認します。
勉強会の内容は、千葉大学の森 恵美（本学会教育推進委員会担当理事）が事例の書き方について話題提供を行い、参加者と意見交換を行います。

【日 時】 平成19年7月21日（土）14時～16時

【場 所】 千葉大学看護学部
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

<http://www.chiba-u.ac.jp/general/about/map/route.html>

【申込み方法】 下記まで、ご氏名（フリガナ）、ご所属、ご連絡先電話番号（ある場合には、メールアドレス）、会員番号、参加証明書の必要の有無等を明記し、FAXかメールで7月6日（金）までをお願いします。

【参加費】 500円（資料・お茶代）

【申込み・問い合わせ先】

千葉大学看護学部母性看護学教育研究分野
高島えり子まで

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL：043-226-2412、FAX：043-226-2414

E-mail takashima@faculty.chiba-u.jp

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を以下の連絡先までご連絡ください。

教育推進委員会担当理事 森 恵美

森 恵美 mori@faculty.chiba-u.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL：043-226-2410、FAX：043-226-2414



看護者の「つぶやき」

ここでは、医療機関或いは教育機関で働く看護職者が「今日こんなことあったよ」、「これってどう思う?」、「ねえねえ、聞いてよ」といったエピソード、日頃感じていること等々、皆様から寄せられた「つぶやき」を掲載しています。皆様からの投稿をお待ちしています。

* N.N氏の「つぶやき」

当院で高度生殖補助医療が始まって、もうすぐ6年目に入る。昨日早番で帰ろうと思ったら、遠くで私の名前を呼ぶ人がいた。なんと4年前に出産したIさんだった。Iさんは、不妊外来が立ち上がった初めの頃に不妊治療してIVFで子供を授かった人だ。あの頃は科としても私自身もかけだしている必死だった。産後に「おめでとう!」を伝えに病棟に行ったら、泣いて喜んでくれた事を今でも鮮明に憶えている。治療の事、産後に感動した事、大きくなってパレエをしている娘さんの話等、話題は尽きず、盛り上がった。今回は凍結卵での妊娠を考えて来院したそうで、私の姿を探して見つけ、ホッとしたと

言っていた嬉しかった。

時間の経過とともに、多くの患者さんが訪れては去っていく中、大所帯のこの外来のスタッフも毎年のように異動があり、6年前から変わらないスタッフは全体の1/3しかいない。患者さんも見慣れぬスタッフにどこまで心を許して相談したらいいか迷うかもしれない。少しずつでも時間をとって患者さんがリラックスして治療に臨めるよう配慮するべきだなあと初心にもどると共に、当時を思い出しながら嬉しく楽しい再会となった。



もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、看護職者として「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」などなど、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと思っています。皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談は、同じような悩みを持つ会員の皆様に参考にしていただけるよう、事前に了解を得た上1年程度経過した後に相談された方が特定できない形に加工し、ニュースレターやホームページに掲載させていただこうと考えています。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) にアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容をご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。



第5回 理事会報告

日 時: 2007年5月12日(土) 13時~16時

場 所: 聖路加看護大学 505

出席理事: 森、村本、福田、有森、野澤、塩沢、小川

【報告事項】

1. 会員数と入退会報告及び承認: 会員数251名
2. 各委員会報告
 - 1) 編集委員会
 - ・学会誌中に3箇所の誤植があり、謝罪文と訂正用シール及び差し替えページを送付。
 - ・発行期日に間に合うよう著者校正をカットし、編集委員で確認。最終のファイルを取り直した印刷業者のミスではあるが、再発を防ぐために著者校正も含めて手順をまとめていく予定。
 - (審議) 著者に対して失礼であるし、学会の評価にもつながる事態。今号は、差し替えた学会誌を再発行し送付する方向で動くことで承認。
- 2) 広報委員会
 - (1) ニュースレター発行…第15号を6月発行予定。
 - (2) 広報…関連学会にもニュースレターを送付し反応あり。日本助産学会、日本産科婦人科学会で配布。今後、日本カウンセリング学会、JISART 研修会、日本母性看護学会で広報予定。
- 3) 教育委員会
 「看護実践セミナー」の計画は順調に進行中。
- 4) 将来検討委員会
 現在まで研究助成の申請なし。18年度の研究は順調に経過中。

3. 特別委員会報告

- 1) 学会発展情勢ワーキンググループ
 入会パンフレットの増刷を随時行っているが、改訂を検討中。
- 2) 看保連対応ワーキンググループ
 本学会から20,000円を拠出。
4. 第5回学術集会準備状況報告
 予算案、学術集会ホームページ開設、演題応募状況について報告。
5. その他
 - 1) 新学会: 世界看護科学学会(仮称)設立に関する会議…ICN 会期中に開催、野澤が出席。
 - 2) ICN 学術集会参加の依頼

【審議事項】

1. 健やか親子21について
2. 看保連(技術部会)への医療技術評価提案について
3. 第6回学術集会準備について
 兵庫県立大学看護学部で、2008年9月の開催を予定。
4. 実践開発委員会への相談内容公開について
5. 不妊看護認定看護師のフォローアップ研修
 今年度は緊急事態であり、できるだけバックアップしていきたいが、協力できる範囲が限られていることをセンターに返事し、必要時改めて依頼してもらう。

日本生殖看護学会からのお詫び 会員の皆様へ

平素より、日本生殖看護学会の活動にご理解及びご協力いただき、誠にありがとうございます。この度、お手元に送付させていただいた学会誌（第4巻第1号）に誤植等があり、ご投稿くださった皆様、学術集会のご準備をしてくださっている皆様、及び記事をご覧になった皆様に多大なご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

先だつての理事会で、今回の経過を確認後今後の対応について検討し、差し替えの学会誌を皆様に再送付させていただきました。本誌は生殖看護の研究・実践に携わる多くの方々の礎、指針となりうる貴重な学会誌であると考えております。今後はこのようなことが再発しないよう、学会誌の投稿規定や編集過程を見直し、よりよい学会誌になるよう検討を重ねていく所存です。

最後に、皆様にご迷惑をおかけしたことを重ねて陳謝いたしますと共に、今後とも日本生殖看護学会の発展にご支援いただけますようお願い申し上げます。

日本生殖看護学会 理事長 森 明子

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX (03-5550-2266) もしくは、E-mail (jsin@slcn.ac.jp) で、お気軽にご知らせ下さい。
2. 住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡下さい。転居先不明で、ニュースレターが事務局に返ってきています。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘い下さい。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせ下さい。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用下さい。

重要 会費の納入をお願いします

会員の皆様、今年度の会費の納入はお済みですか？

「平成18年度会費」は、平成18年9月1日～平成19年8月31日までの諸活動に伴う会費です。第5回学術集会の参加費も会費納入の有無によって変わってきます。まだお済みでない方は、納入をよろしくお願いします！

編集後記

5月27日から、「最前線の看護者たち：予想せぬ事態に立ち向かう」というテーマのもと、国際看護師協会 (ICN) 学術集会ならびに会員協会代表者会議 (CNR) が横浜市で開催されました。そこでは、加盟129カ国から多くの看護者が集い、活発なディスカッションや交流の場が持たれ、世界で「試練に立ち向かって」頑張っている看護者の姿に刺激され帰ってきました。

新年度が開始したと思ったら、あっという間に6月も終わり、いよいよ梅雨です。うっとうしい季節と感じている方も多いのではないのでしょうか。私もその思いを吹き飛ばそうと新しい傘を購入しました。出先で早速忘れないようにしないと(笑)。

今号は、広報委員としまして、とても心算の思いで記事を掲載させていただきました。会員の皆様によりよい情報の発信ができるよう、努力していく所存です。これからも、忌憚のないご意見をよろしくお願いたします。

(広報委員：野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成哲子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp (当面、このアドレスを使用)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>